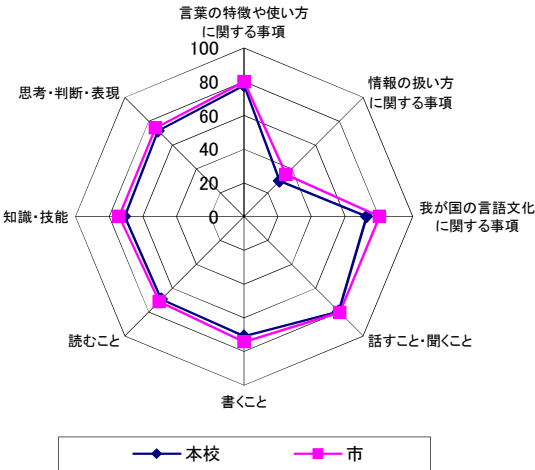


宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.9	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	29.8	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	72.7	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	79.5	80.4	77.7
	書くこと	71.0	74.3	62.9
	読むこと	69.3	71.2	65.8
観点別	知識・技能	70.8	74.1	68.4
	思考・判断・表現	72.0	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

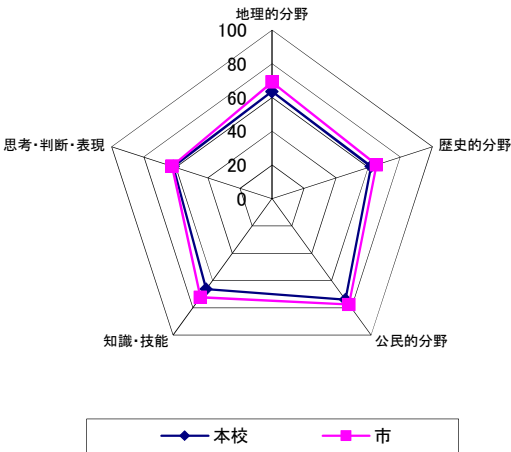
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みの問題では、4問中3問、市の正答率を1.2ポイント以上上回っている。その中でも正答率100ポイントのものがあつた。 ○語句に関する事項で、対義語について理解している生徒が9割を越えおり、市の正答率を1.8ポイント上回っている。 ●漢字を書く問題では、全国の正答率を下回っている。 ●用言の活用についての理解が十分でない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・使用している漢字の学習とそれに付随する漢字小テストを引き続き活用していく。小テストを実施するごとに漢字学習をチェックし、また、小テストでできなかった問題は、5分程度の時間を取って覚え直しするなどし、書字力を高めさせていく。 ・用言の活用を扱う授業では、活用表を用い、その規則性を学ばせる工夫をするとともに、文法事項全般において、ワークや単元プリント、さらにAIDリル活用を手掛け、問題を多く解くことによって理解を深めさせる。
情報の扱い方に関する事項	○情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉えているかの問題の正答率は、7.1ポイント全国平均を上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する記述問題では、正答率が3割にも達していなかった。	・1学年から情報について学ぶ単元がある。情報の客観性や信頼性について捉え、学年の段階を追って情報のもつ意義の理解を深めていく授業の工夫を行う。 ・よりの確な情報の扱い方について理解を深めさせていくよう、情報について自分の考えをもち、まとめ、発表し合う活動を行う。
我が国の言語文化に関する事項	○現代語訳を手掛かりに古典を読む問題の正答率は85.9ポイントで、全国正答率を3.8ポイント上回っている。 ●歴史的仮名遣いの理解は、全国の正答率を15.5ポイント上回っているものの、6割を越えていなかった。	・便覧やワークの資料のページを活用し、その時代背景を捉え、古典文学の理解を深める助けとしていく。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いにする法則を押さえつつ、歴史的仮名遣いを見て、現代仮名遣いで読めるよう音読を繰り返し、体得していけるようにする。
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取る問題では、9割近くが話の展開を予測しながら聞くことができており、全国や市の正答率を3.3ポイント以上上回っている。 ●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話しているかを問う問題では9割近くの正答率であったが、市や全国を下回っている。	・小学校からの話し合い活動の積み上げを大切に、中学校でさらに深化させていけるよう、学年ごとに設定されている話し合い活動や議論の仕方をしっかり捉えたいうえで、実際に話し合い活動を積み重ねていく。 ・聞き取るポイントを察知する力を身に付けられるよう、聞き取りテストを行い、トレーニングを積んでいく。
書くこと	○文章を書く記述の出題で、5題全て75ポイント以上の正答率であり、全国正答率も上回っている。 ●多様な読み手を説得できるように文章の構成を工夫しているかを問う選択問題での正答率は、5割を下回った。 ●自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫しているかを見る記述の問題での正答率は、26.3ポイントと低く、全国、市の両方を下回っている。	・論理的文章を読む題材において、読み手に分かりやすく伝える文章、説得力のある文章の書き方、工夫の仕方を捉え、自己の文章表現に生かしていく学習活動を行っていく。 ・読むことの題材で、文章を読み、自分の考えをもち、それを文章にする課題が設定されている。その課題への取り組みを積み重ねていくことにより、自分の考えをまとめ、文章にする力を高めさせていく。 ・今年度購入した、作文トレーニングプリントを活用する。
読むこと	○論理の展開の仕方を捉えているかを問う問題での正答率は93.9ポイントで、全国、市の正答率を2.9ポイント以上上回っている。 ○文章の構成を評価しているかを問う問題での正答率は81.8ポイントで、全国、市の正答率を1.6ポイント以上上回っている。 ●文学的文章を読み取る問題では、4問中3問が全国や市の正答率を下回っている。	・説明的文章を学習する授業では、文章の構成や論理の展開の仕方を理解し、さらにそれを評価できる力を身に付けられるよう、ワークシートの工夫に努める。 ・文学的文章を読む授業において、伏線、人物や情景描写、場面の展開などを押さえながら読み進めることにより、文学的文章を読み取る力を、さらに、文章を評価したり、批判的に解釈する視点を捉え、批評する力を身に付けさせていく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.5	69.2	61.5
	歴史的分野	61.8	65.1	59.1
	公民的分野	74.1	77.6	71.6
観点別	知識・技能	66.3	72.2	66.8
	思考・判断・表現	61.6	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

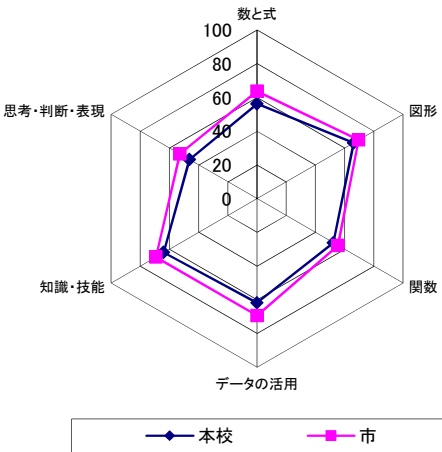
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○日本の水産業の特色について、資料をもとに把握する問題では、全国正答率よりも5.8ポイント上回っている。 ○日本の人口の特色について、複数の資料を関連づけて考察し、表現する技能において、全国正答率よりも15.6ポイント上回っている。 ●市の平均を5.7ポイント下回っている。 ●日本の地形の特色の問題では、市の正答率を19.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・世界から見た日本の姿の学習においては、世界的な視野から日本を一つの地域としてとらえさせ、日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目させたりしながら、日本の国土の特色を理解させる。具体的には教科書や地図帳の地図やグラフ、写真などを十分に読み取らせながら、日本全体の特色を理解させる。 ・日本の地形の特色を世界の地形と比較させながら、景観写真や地図などを用いて、その特色を理解させる。
歴史的分野	○世界の主な古代文明の共通点について考察する問題は、市の正答率を1.2ポイント上回っている。 ○江戸幕府による大名の統制について、資料をもとに判断する技能では、市の正答率を1.2ポイント上回っている。 ●市の平均より3.3ポイント下回っている。 ●江戸幕府の外交に関する問題では、市の正答率を2ポイント下回っている。	・歴史学習は単に過去の出来事や人物を覚える学習ではなく、歴史の大きな流れや因果関係を捉えたり、歴史的な見方・考え方を習得し、現在の社会や未来の社会を考える学習であることを理解させる。具体的には歴史に関わる事象の意味や意義、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりを様々な視点から考察できるよう、実物資料や過去の映像等を用いる。また、時代ごとに年表を作成させたりして、歴史の流れを大きく捉えさせる。
公民的分野	○物事の採決の仕方についての問題では、全国正答率よりも27.6ポイント、市の正答率よりも6.7ポイント上回っている。 ●市の平均を3.5ポイント下回っている。 ●公共の福祉について、資料を参考にして、自分の言葉で表現する問題では、市の正答率を12.6ポイント下回っている。	・公民の授業では、現代社会に見られる少子高齢化やグローバル化の進展による経済格差等の課題について、多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力、また思考・判断したことを説明したり、それらをもとに議論させたりすることにより表現する力を養っていく。 ・授業において、調べ学習やグループワーク、話し合い活動といった対話的活動を取り入れた授業の展開、また多様な意見や考えが生まれる発問や課題を設定する。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	56.3	63.7	61.5
	図形	66.2	69.6	61.1
	関数	52.3	55.4	43.5
	データの活用	61.8	69.3	64.2
観点別	知識・技能	64.0	69.2	65.3
	思考・判断・表現	46.4	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

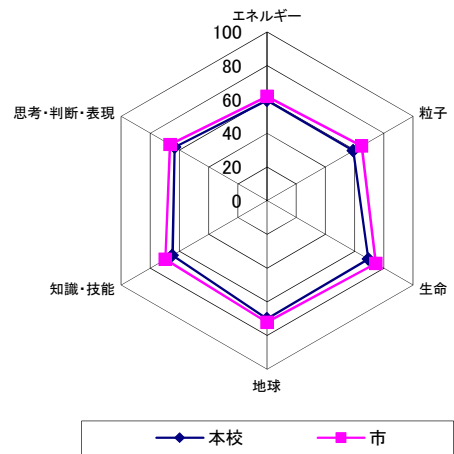
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○一次式の減法の問題は、全国の正答率を30.6%上回った。 ●市の平均を7.4%下回っている。 ●平方根の大小や根号を含む式の加減についての問題についての理解が不十分な生徒が多い。 ●二次方程式の平方根を使った解き方の問題が市の平均を13.7%下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「数と式」の分野では、計算の過程をしっかりと理解することと繰り返し計算問題を解くことを行い、計算テストなどを行いながら、理解度を確認し指導する。 ・複雑な計算問題でも過程を大切にし、途中計算を見てどこが間違っているのか明確にし、解答・解説を実施する。
図形	○図形を平行移動させたあとの図形を選ぶ問題は、9割以上の正答率である。 ●市の平均を3.4ポイント下回っている。 ●折り目の線の作図について、正しい考えを選ぶ問題の正答率が低い。 ●証明の必要性和意味について答える問題の正答率が低い。	・証明に関しては、定理(根拠となることから)を覚えることや見通しをもって取り組めるように指導する。 ・合同条件や相似条件について、反復練習を行うことで、知識の定着を図っていく。
関数	○表を読みとり、比例の関係にあるxとyを、式に表す問題では、市の正答率を1.2%、全国の正答率を9.2%上回っている。 ●市の平均を3.1%下回っている。 ●問題の条件に合う点の座標を求める問題では、校内正答率が44.4%と低い。	・座標の読みとり方や変化の割合の求め方など、基礎的な学習を繰り返し行う。 ・応用問題に関しては、表・式・グラフのどれを使って指導をするか理解しやすいのかを考え、その問題に合った答え方を選択肢として与える。
データの活用	○大小2つのサイコロを投げたときの確率を求める問題では、全国の正答率を5.6%上回っている。 ●箱ひげ図と四分位範囲について理解度を図る問題では、正答率が39.4%と低い。 ●市の平均を7.5ポイント下回っている。	・代表値は平均値だけでなく中央値があることを説明し、平均値を使ったヒストグラムと同様、中央値を使った箱ひげ図もデータの分析には有効であることを学習させる。 ・やや複雑な確率の問題にも挑戦させ、順列と組み合わせの違いについても触れる。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	59.5	61.8	60.6
	粒子	59.1	64.8	54.0
	生命	69.4	74.5	66.6
	地球	70.1	72.1	63.0
観点別	知識・技能	64.8	69.6	63.4
	思考・判断・表現	63.2	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

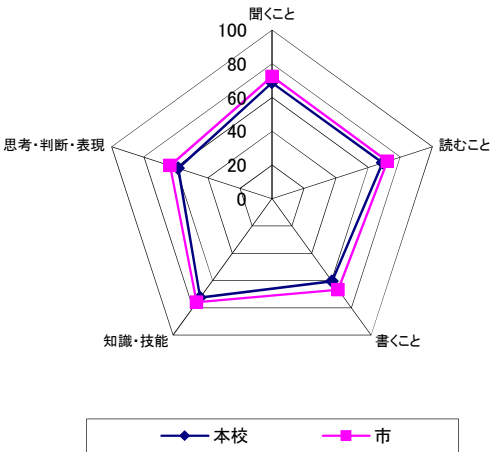
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○力学的エネルギーの保存については、概ね理解できている。 ●市の正答率を2.3ポイント下回っている。 ●光の性質についての思考力に課題がある。特に虫眼鏡で遠くのものを見たときの像についての考察に課題がある。	・実験や観察の結果から何がわかるのかを自ら導き出せるような支援を継続していく。 ・学んだことを身のまわりの事象と関連させ、思考力・表現力の育成を図っていけるように指導していく。
粒子	○水溶液とイオンについては概ね理解しており、市の正答率を上回っている。 ●市の正答率を5.7ポイント下回っている。 ●酸化銀を加熱したときの化学変化については、学習内容が十分に定着していない生徒が多い。	・知識を定着させるため、実験・観察後において結果の確認だけで終わらせることなく、考察や問題演習などを通して理解を深めていけるようにする。 ・モデル図などを効果的に活用し、視覚的にわかりやすく説明していく。
生命	○細胞分裂の過程については、よく理解できている。 ○植物の分類については、概ね理解できている。 ●市の正答率を5.1ポイント下回っている。 ●動物のからだのつくりとはたらきでは、血液中の成分のはたらきについて問う問題で市の正答率を12.3ポイント下回っている。	・生命の単元では、多くの専門用語が使われており、その語句や意味を正確に覚えたり、理解したりすることが不足しているため、実力テストや課題テストを活用しながら、復習をする習慣を身に付けさせる。
地球	○天気図記号を読みとり、風向・風力を指摘する問題は、市の正答率を4.1ポイント上回っている。 ●市の正答率を2.0ポイント下回っている。 ●地震が発生した時刻を推測する問題では、市の正答率を6.4ポイント下回っており、知識を活用することが苦手であると考えられる。	・表面的な知識の習得だけでなく、科学的根拠に基づいて説明ができるような思考力と表現力の育成を図っていけるよう、実験・観察後の考察の時間を十分にとり、お互いの意見交換の場を設ける。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	68.8	72.5	70.5
	読むこと	69.0	71.9	66.9
	書くこと	60.5	66.8	59.7
観点別	知識・技能	72.6	76.0	73.9
	思考・判断・表現	58.5	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○内容理解に関するリスニングでは、概ね内容を理解することができている。 ○英文を聞き、英語学習に関するグラフの内容に合う絵を選ぶ問題では、市の平均を5.9ポイント上回っている。 ●対話文に関するリスニング問題は、いずれも市、全国平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・対話文に関するリスニング問題については、実際に対話文の演習を行う活動を取り入れながら、さまざまな場面での対話活動を多く取り入れる指導を行う。 ・対話のバリエーションを豊富に例示しながら、内容を聞き取り理解できるような活動を行う。
読むこと	○英文の情報を読み取り、正しく理解する問題では、全国平均を4.7ポイント上回っている。 ●語形・語法の知識・理解の問題に対する理解が不十分である。 ●助動詞mustを使った否定文では、市の平均を8.5ポイント下回っている。 ●moreを使った比較級の文では、市の平均を5.4ポイント下回っている。	・語彙力をつけるため、教科書で学習する単語を繰り返し演習し、単語テスト等で語彙の定着を図る。 ・文章の読解力を向上させるため、初見の文章を読んで内容を理解させる活動を行いながら、文章の内容が把握できているか、問題を通して確認していく。
書くこと	○have to の否定や動名詞を使った語順並べ替えの英作文では、いずれも全国平均を上回っている。 ○一番好きな季節について3文で理由や説明を書く英作文では、いずれも全国の平均を1.8～4.4ポイント上回っている。 ●Whyを使って理由を尋ねる英作文では、市の平均を10ポイント下回っている。	・基礎・基本的な文法の知識に関する理解が不十分な点に関しては、文法事項を学習した際に、練習問題として演習を多く行い、小テスト等を実施して理解度を確認し、指導する。 ・AI型個別学習ドリルソフト等を活用し、それぞれが苦手な分野についての演習に取り組めるよう指導することで、知識・理解の定着を図る。

宇都宮市立城山中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫	授業での目標や振り返りを明示して、学ぶ意欲を高めている。また自分の考えをまとめ、全体の前で説明や発表する機会をできるだけ多く設定する。	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した生徒の割合は1年生が71.1%、2年生が77.6%、3年生が82.0%と学年を追うごとに高くなっている。
学習習慣の定着を目指す指導の工夫	「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉として、小学校からの継続的な取組として行っている。また自主的な学習への取組を習慣化させて、基礎・基本の定着を図る。	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した生徒の割合は1年生が83.5%、2年生が86.7%、3年生が84.0%となっているが昨年度よりも下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・どの学年の結果を見ても、インターネットやパソコンの活用についての生徒の肯定的回答の割合が高く、普段の授業や総合学習での発表など、一人一台のタブレットを使った学習がだいぶ定着してきたことがうかがえる。

・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」には学年によっての差はあるものの、5割ほどの生徒が肯定的に回答している。次年度も引き続き地域学校園で共通理解を図って、家庭学習の習慣化と自主的に学習に取り組む指導を充実させていきたい。